



千代田区洪水ハザードマップ（荒川版）

千代田区 政策経営部 災害対策・危機管理課 加藤 啓輔様

卓話者紹介

山田 丈夫会員

加藤様は平成 11 年、東京都庁に入庁、20 年間、様々な業務に従事、課長就任と共に千代田区に派遣され、今年 4 月より現在の政策経営部 災害対策・危機管理課長として勤務されております。本日は平成 28 年に発表された、荒川洪水浸水想定区域図に基づき、千代田区の洪水ハザードマップを改定致しました。8 月下旬には区内全世帯に配布予定です。荒川が決壊した時に想定される浸水の深さや、避難方法などをお話頂きます。

大雨・洪水と言いますと、平成 30 年 7 月の西日本豪雨がありました。報道でも平成最悪の水害と言われ、西日本を中心に死者が 200 名を超える甚大な被害をもたらしました。今年に入ってから先月、九州地方で大雨があり、連日報道されましたので記憶に新しいところだと思います。この時は気象庁でも、「自らの命は自ら守る」「早め早めの避難・安全確保」を呼び掛けておりました。ひと昔前は、「災害は忘れた頃にやってくる」と言われていましたが、今は、災害は忘れる間もなく次から次へとやってくる状況です。

荒川版のハザードマップを修正することになった経緯は、平成 25 年 8 月には大阪市梅田駅周辺の浸水、平成 26 年 8 月には徳島県阿南市で避難所の 2 階まで浸水する被害などがありました。このように、当初の想定を超える浸水被害が多発したことがあり、平成 27 年(2015) 5 月、水防法が改正され、今後は命を守ることを最重要課題として取り組み、被害が最大となるような計算条件を設定しました。これにより、平成 28 年(2016) 5 月、荒川洪水浸水想定区域図を発表、千代田区洪水ハザードマップを修正しました。

洪水ハザードマップ作成の目的は、洪水時の破堤等による浸水状況や避難方法等に係る情報を住民にわかりやすく提供することであり、ハザードマップを活用することで、避難行動が早くなり、命を守ることに繋がります。実際ハザードマップを見た避難者は見なかった避難者の 1.5 倍多く、避難の開始時間が 1 時間早かったというデータもあります。

警戒レベルとは、区が発令する「避難情報（避難勧告等）」です。平成 30 年 7 月豪雨で様々な防災情報が発信されているものの、住民が活用できなかったことを踏まえ、住民が情報の意味を直感的に理解できるように設定されたのが警戒レベルです。避難行動を支援する目的で、今年度から運用が開始されました。警戒レベルは 1 から 5 まであり、警戒レベル 1 と 2 は気象庁が発表、警戒レベル 3～5 は市区町村が発令します。

警戒レベル 3：避難に時間を要する人は避難する
警戒レベル 4：全員が避難する
警戒レベル 5：既に災害が発生している状況

避難方法として、水平避難と垂直避難があります。水平避難は避難方法の原則です。荒川の堤防が決壊してから、氾濫水が千代田区に到達するまで、12～24 時間かかると見込まれます。避難までのリードタイムがあることから、浸水想定区域外に避難します。浸水想定区域外の親戚や友人宅に避難する「縁故避難」も併せてご検討下さい。また、浸水後、水が引くまで 2 週間以上要すると言われており、水が引くまで、電気、水道、ガス、トイレなど使用できない可能性があります。マンションの上層階にお住まいの方でも孤立することが考えられますので、浸水想定区域外へ避難して下さい。

垂直避難は、時間の猶予がない時や浸水が始まっている時に頑強な 2 階以上の建物へ避難をすることです。神田川や日本橋川の氾濫、短時間で局地的大雨が降り、下水道で雨水の処理がしきれないことでマンホールから水が溢れ出る内水氾濫も垂直避難が基本です。

安全避難のポイントです。避難行動は浸水前に、地域で声を掛け合って早めに避難して下さい。動きやすい服装で、必要最小限の荷物で、河川や水路などに近づかないようご注意下さい。既に浸水が始まっている時は、裸足や長靴は厳禁です。また、側溝やマンホールなど水中の障害物に注意して下さい。傘や杖などで足元を確認しながら歩くのも有効です。歩行可能な水深は約 50 センチ、水の流れが速い時は 20 センチ程度でも危険だと言われていています。危ないと判断した場合は、無理せず高い所で救助を待つて下さい。

水害は地震とは異なり、突然発生するものではないことから、正しい情報を得て準備することが大事です。日ごろから行っておくことは、自宅周辺の災害危険度の把握、非常持出品の準備。避難場所・避難経路などをご家族で確認して下さい。実際に避難に要する時間の確認も大事です。側溝や排水溝は掃除して水はけを良くしておくこと、風で飛ばされそうな物は固定する、家の中へ移動するなど準備して下さい。また、災害時に最も頼りになるのが、「地域住民の協力体制」です。地域で避難計画を作り、どうすれば災害から助かるのから、地域で話し合ひましょう。

しかし、一番大切なのは、「いざという時に自分や家族の命を守れるようにする！！」ことです。

創立 1993 年 10 月 13 日(平成 5 年)
例会日 毎週水曜日 12:30～13:30
事務局 〒102-0073 東京都千代田区九段北 1-2-2
グランドマン九段 906 号
Tel : 03-3288-7300 Fax : 03-3288-7400
<http://tokyo-orc.jp/> E-mail : ocha-rc@sirius.ocn.ne.jp

例会場 ホテルグランドパレス
Tel : 03-3264-1111
会長：永井 一史 幹事：西村美智子
会報委員長：松島 健
会報委員：木村・木宮・佐々木・八木・山下